



厳しい暑さが続きますが、みなさん体調を崩されてはいませんか？夏はさまざまな皮膚トラブルを引き起こす季節でもあります。そこで、今月は夏に起こりやすい皮膚トラブルについてのお話です。



## あせも

あせもは汗の出る穴がつまり、汗の出口がふさがれて炎症が起こる症状で、細かく赤い発疹がでます。おでこや肘、首の周りなど汗がたまりやすく、皮膚がこすれる場所にできやすいです。



赤ちゃんはとっても汗っかきです。外出後などは体全体に汗をかいていますので、濡らしたガーゼなどで拭いたり、シャワーで汗を流し、清潔で乾燥した服に着替えましょう。おむつの中は特に汗でムレたり、排泄物が溜まって皮膚に炎症が起きやすいため、一番に清潔を心がけたい場所です。おむつの交換タイミングではなくても、暑い時期はこまめにおむつの中をチェックして、清潔にしてあげましょう。

## 水いぼ

ウイルスの感染によってできる「いぼ」の一種です。いぼは数個～数十個できる事があります。

水いぼは、いぼが破れて中の伝染性の強いウイルスに触れることによる「接触感染」です。水いぼのできた子の肌と直接触れ合ったり、水いぼのウイルスが付いた物に触る事で感染します。

少量のうちは気づかないこともあります。掻くことで傷になり広がったりしますので、小さいお子さんは普段からお風呂などで皮膚のチェックをしてあげましょう。

水いぼは自然に治ることもありますが、長期間かかる可能性があります。色々な治療法があり病院によってその選択肢が違います。担当医に相談して決めましょう。



## とびひ

虫刺されやあせも、ケガをしたりしてできた傷を手で触ったり掻いたりした際に、黄色ブドウ球菌や溶血性連鎖球菌などの細菌が付着して起こる病気です。鼻の入り口には様々な細菌が存在しているため、赤ちゃんが鼻を触る事が多いと鼻の周りからとびひができてしまいます。また、鼻を触った手であせもや虫刺されを触ることで、とびひが広がることもあり、皮膚を掻きむしって傷つけたり、汚れた手で傷を触ったりすることが多いと、何度でもとびひにかかってしまいます。

とびひに気づいたら早目に病院を受診し、適切な治療をしましょう。

